

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792800096		
法人名	社会福祉法人 コスモ福祉会		
事業所名	グループホーム 星の郷みらい 水芭蕉		
所在地	福島県西白河郡西郷村大字米字中山前157		
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成28年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して4年目となり、入居者のADLの低下や、認知症状の進行が著しいなか、家庭での生活と変わらない生活へと近づけるよう取り組んでいる。できることを少しでも維持できるように、入居者のやりたい事、望むことを大切に、日々の支援をしている。介護職員、看護職員と共に、協力医療機関との密接な連携をとり、入居者の健康管理を行っている。また、ご家族の協力のもと、受診等を支援して頂いている。ご家族とも、連絡を密にし、日々連携しながら入居者の支援をしている。

開放感がある施設の各居室からの眺めは、季節が感じられる配置となっており、一部の居室からは、中庭への出入りを行うことができる。敷地内に畑があり、野菜や花を育てて建物内部は木が多く使用されており、入居者にとって温かみのある落ち着いた空間となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①地域の代表者や行政担当者、家族の代表に参画してもらい定期的に運営推進会議を開催している。運営推進会議では外部評価での指摘事項の中で特に重要な防災訓練等に対しては、夜間想定訓練や訓練に委員が参加するなど効果的な会議運営がなされている。

②利用者が、可能な限り継続して事業所で生活を継続できるように、介護職員、看護職員と共に、協力医療機関との連携を図り、日常的な健康管理を行ったり、重度化した場合も医療関係者等と密接な連携を図りながら、利用者や家族の意向に沿った支援が出来るような体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示をしている。また、毎朝のミーティング後、理念の唱和を行い、職員との共有の実践に役立てている。	事業所と地域の関係性を重視した理念を策定し、事業所内に掲示し毎朝職員全員で唱和を行い共有を図っている。また、年度単位に、理念に則したより具体的な目標を策定し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動への参加や、地域の商店、理美容室の利用をしている。年1回の事業所のお祭りには、チラシ等を配布し、家族の方のみならず、地域の方への参加を呼び掛けている。	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、事業所主催の秋祭りには、地域住民の方々を招き、更には、村の社会福祉協議会を通じてボランティアを積極的に受け入れる等、近隣に住む人達と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談や、包括支援センター、社会福祉協議会からの紹介にてご相談があった場合には、話を聞かせて頂き、相談等に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	役場、地域包括支援センターの職員、行政区の区長、民生児童委員、家族代表の方に毎回連絡し、会議に出席頂いている。地域との接点として重要な役割をして頂いており、事業所の報告に関して意見や助言を頂いている。	2ヶ月に1回のサイクルで定期的に運営推進会議を開催しており、事業所からの運営状況や外部評価結果の報告をすると共に、事業所内の運営課題や外部評価での指摘事項に対し、会議メンバーから様々なアドバイスを受け、実際の運営に反映させるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に入居者の現状報告、入退所の連絡をし、運営推進会議にもご出席頂き、事業所の状況を報告している。役場、地域包括支援センター、社会福祉協議会(居宅)が同敷地内にあり、訪問した際には話をさせて頂いたり、電話にてご相談させて頂いている。	運営推進会議では、行政担当者に対し事業所の実情やケアサービスについて情報共有するとともに、介護制度改正や利用者受入時の様々な問題解決に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに参加し、身体拘束について話し合う機会はあるものの、全体での取り組みが確実なものとはなっていない。委員会設置後の活動が思うようにできていないのが現状である。	新人研修時に高齢者の権利擁護や身体拘束をしないケアについて指導している。また、利用者との日常的なコミュニケーションの中で、威圧的な行動や言動が発せられていないか職員相互で点検している。今年度、新たに「身体拘束排除委員会」を発足し、身体拘束のないケアの取組強化を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、研修会等への参加は多くないが、時事のニュースなどを通して、職員間での意見交換や、事例について話し合う機会がある。今後は、定期的な勉強会などが必要と考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業(安心サポート)を利用している入居者がいるため、担当者との協力体制が築かれている。今後、制度に関しては会議等で改めて学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、見学、施設の概要の説明等をさせて頂き、入居者、家族共に納得頂いてから、契約の締結を行っている。説明の際には、質問等をお受けし、入居後も疑問な点等がある場合にはこちらからご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話で連絡させて頂いた時に、ご意見を伺う事が多い。また、運営推進会議にもご家族代表の方に参加頂き、ご意見を伺う機会を設けている。玄関先にはご意見箱を設置している。頂いたご意見は職員会議やユニット会議を通して職員間で共有し、運営に反映させている。	運営推進会議や利用者への面会、サービス担当者会議などの際に、事業所の運営に関する意見や要望を聞くよう努めている。出された意見や要望については、職員間で話し合い、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議の場で、話し合う機会を設けている。また、職員と管理者が話し合う機会を多くするようにしている。	毎月開催している全体会議やユニット会議を通じて、職員の意見を聞くように努めている。また、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけ、職員の意見や提案を運営に反映させるよう取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績をもとに毎月、全職員の勤務状況と努力を把握している。また、年2回の自己評価にて、第一次考課、第二次考課を実施し個人の評価につなげ、個人の向上心につながるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ企業内、法人内での合同研修会に参加している。新規・中途採用者については、定期的に研修を行っており、その他の職員についても、外部機関で実施される研修に参加を進めている。また、職員会議等で研修報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会、県南支部から講師派遣をして頂いたり、他のグループホームとの交換研修に参加し、内部だけでは学べないことを学ぶ機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う実態調査では、本人の様子を細かくお聞きし、ケアプラン作成のアセスメントにおいては、本人のご意向をお聞きし、入居後の生活についてのプランをお話しさせて頂いている。安心して生活して頂けるような声かけをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の説明時などに、本人のみならず、家族からの要望を細かくお聞きし、日々の支援に生かすようにしている。本人の体調や精神状態の変化などに関しては、こまめに連絡をし、その時々のご要望をお聞きするように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域密着、認知症対応型のグループホームであることをご説明し、ご理解いただいた上で、本人、家族のご希望に添えない場合には、他事業所等への紹介をさせて頂き、連携を図るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見極め、洗濯物たたみや配膳、野菜の皮むきなどを一緒に行っている。職員も、全て介助してしまうのではなく、共に生活しているという意識をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回発行している広報に、生活状況について報告している。本人の状況に変化があった際には電話連絡等を行っている。また、面会時にはご本人の様子について報告し、病院受診時や入院時には家族に対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力のもと、外出時に兄弟や親戚の自宅を訪問したりしている。面会は家族中心のことが多いが、知人が来た時には一緒に過ごせるような環境づくりに配慮している。	利用者本人が培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、知人との面会や電話連絡、手紙や年賀状の作成支援を行ったり、家族に協力してもらい、馴染みの理美容室を利用してもらおう等、その関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い雰囲気の中で生活することができるように、職員も話の輪に入り、関係づくりをしている。入居者同士で不安や悩みを話す機会もあり、常時、座席の配置など配慮している。レクリエーションなど、皆で参加できるような工夫をし、お互いが関わり合えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所側から連絡をする機会はあまりないが、街中でお会いした時には、現在の状況や悩みなどをお聞きし、お話しさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事あるごとに、入居者の希望や意向を確認し、なるべく叶えられるように努力している。また、ご家族にはこれまでの生活状況や、本人が望んでいたことを確認している。	利用者の生活歴や家族からの情報を得て、利用者の思いや希望を見いだせるよう努めている。また、日常的には、日頃の関わりの中から意向や要望の把握に努めている。困難な場合は行動や仕草、表情から意向をくみ取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人からのこれまでの生活歴についての聞き取りと、それに合わせて、入居前に利用していた事業所等からの情報提供書などで情報を収集。本人への話題の提供や趣味を探し、家庭と変わらない生活が送れるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者、個々に合った余暇の過ごし方、家事手伝いなど残存機能の活用に努めている。また、日々の細かい変化に気付けるよう、日頃から状況を観察している。1日の様子はミーティング内で報告し、各職種間での情報共有に役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議にて、入居者の状況、ニーズについての把握を行っている。だが、プランの評価、見直し等、不十分な点もあり、プランに基づいた支援についても今後、見直しが必要である。	利用開始時は3ヶ月間の介護計画を作成している。介護計画に沿ったサービス提供状況のモニタリングを行い、本人及び家族の意向を確認し、職員の意見を反映した計画の見直しを行っている。通常は6ヶ月毎であるが、心身状態の変化があった場合は、状態に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録の中で、本人の言動や出来事を詳細に記入し、気づいた点やいつもと変わった点なども詳細に記録している。職員間で引継ぎ、共有し、対応を考えたり、統一したケアができるよう話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医の往診、個別の訪問リハビリ、同村内の理容室による訪問理容、歯科医による訪問診療等、ご本人の希望に添えるようなサービスを取り入れるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別の訪問リハビリ、同村内の理容室による訪問理容、社協から紹介頂いたボランティア等、地域の資源を活用し、本人が望む暮らし、張りとう潤いが持てるような暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご家族、本人と相談させて頂き、かかりつけ医を決定している。入居前からのかかりつけ医を変更しない方もいるが、変更を希望する場合には、協力医と連絡を取り、家族、本人の承諾のもと変更している。受診の際にはご家族へ、日頃の状況を書面で申し送り、必要に応じては、医師と当事業所の看護師、ケアマネが直接情報提供をしている。協力医の先生には月に1回の往診をして頂いており、緊急時にも看護師と連携して対応頂いている。	かかりつけ医には往診もお願いしており、受診の際には、状況を家族と医師に文書で提供している。協力医の定期受診の際には、医療連携看護実施記録に記録し、同行できない家族には電話などで連絡をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常時勤務しており、日中帯に変化があった場合にはすぐに対応している。不在時には隣接している法人内の看護師の協力を得て対応している。また、夜間はオンコール体制をとっており、急な怪我や病気の際には看護師の判断の下、適切な医療機関へと繋いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への入院時には、病院側へ速やかに情報提供し、安心して治療が受けられるようにしている。また、病院の医療連携室等と連絡を取り合いながら定期的な訪問をし、入院中の状況について把握することに努めている。退院時のカンファレンスには家族の許可を得て、同席させて頂き、退院後の支援に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化・終末期の対応に係る指針」に基づきご説明している。実際にそのような状況になった場合には、事業所の協力医と連携のもと、家族、医師、ケアマネを中心とした職員を交えた話し合いを行い、入居者のニーズに合った支援を行えるよう取り組んでいる。	指針に基づき本人、家族の同意を得ている。職員、看護師、協力医の連携を取りながら日々の生活を大切に支援を行っている。また、職員を外部研修に派遣し、内部で報告し情報共有したり、重度化や看取りに関する手引書などで、職員の意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で、看護師を中心に、AED講習会やDVD観賞を行い、急変時に備えている。毎月の防災訓練では、事故や災害発生時の初期対応についての訓練も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、消防署立会いの訓練を行っている。また、毎月、3事業所合同の防災訓練を実施している。火災、地震、水害、夜間想定(夜勤者のみ)での訓練を行い、特に夜間想定の場合には通報訓練も同時に行い、災害時への備えをしている。運営推進会議などでも災害時への協力について話し合いをしている。	前回の外部評価に基づき消防署立ち合いのもと、3事業所合同防災訓練(夜間想定)を実施し、村役場職員、区長など運営推進委員も加わった。水害時のハザードマップもチェックしている。地元の消防団への声かけなど地域連携を強化する方法なども検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や言葉遣いなど、一人ひとりに対応の仕方を変え、その方に合った声かけをし、笑顔で接している。また、人生の先輩であることを忘れずに丁寧な対応を心がけている。申し送り等は、入居者の前では行わないように配慮している。	人格の尊重、個人情報保護等の研修を行うなど、対人援助の基本を確認し合っている。日々の支援では、言葉をかける時も声のトーン等にも配慮し敬意を払いながら寄り添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような思いを抱えているのか、理解しようと努力している。また、本人が話しやすい関係づくりを心がけ、傾聴し、安心して生活できるように心がけている。だが、時間がない時には職員の都合になる事もあった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや性格に合わせ、ご希望に添えるように対応するよう心がけているが、職員の業務中心になってしまうこともあり、思うように出来ないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、ご本人様の希望に沿うように、また、季節感があるように用意している。本人の愛用の化粧品や櫛など、手の届きやすいところに置いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	畑での野菜の収穫、野菜の皮むきや、すりおろし、簡単な調理や盛り付けなど一緒に行ったり、味見をして頂いたりしている。また、食事を一緒に摂り、食材の話をしたりしたりしながらコミュニケーションを図っている。	事業所の近くにある畑で職員が育てたトマトやキュウリなどを入居者が収穫して味わうなど、食べる喜びにつながるような取組を行っている。また、日常会話の中で、誕生日に食べたいものなどの希望を引き出し願いを叶えている。食器拭きは利用者の楽しい仕事のひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算のされた献立で提供している。また、一人ひとりの好き嫌いなどにも対応しており、必要に応じて食事形態も変更している。夏場は、熱中症防止のため、こまめな水分補給に努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。声かけをし、必要に応じて口腔内の状態を見させていた だいている。義歯は、夕食後毎に洗浄剤で 洗浄し、清潔を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者、一人ひとりのタイミングや時間の排泄パターンをよみ、声かけ誘導をしている。個人のプライバシーに配慮し、適度な音量で話しかけ、恥ずかしさを感じさせぬように配慮している。だが、おむつに頼る事もあり、職員が介助しすぎてしまうこともある。機能低下している入居者もあり、ユニット内で相談しながら支援を行っている。	利用者が排泄で恥ずかしい思いをしないように一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく誘導している。ユニット会議では、臭いや機能低下に伴う移乗・就寝前のケアなどについて話し合われ、個々の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者に対しては、水分を多く、また乳酸菌飲料などを摂って頂き、歩行運動や毎日の体操や散歩などで、体を動かすよう声かけをしている。看護師と連携して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり入浴の仕方が違うため、個々に合わせた入浴方法を行っている。また、入居者からは、曜日と時間を決めてほしいとの要望があったため、入浴日を決めて対応している。	入浴は、利用者の希望とタイミングを見計らいながら週2回以上入浴できるよう支援している。浴室は浴室乾燥機付きの個浴で、脱衣室にはエアコンがあり適温が保たれている。また、入浴剤などを使って入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息をとって頂いている。ずっと椅子に座っていることも疲れてしまうため、ソファなどへ座ってゆったりして頂いている。昼寝の時には、居室を暗くしたり、寝具類を清潔に保ち心地よく休んでいただくように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬について把握するのは難しいが、内容等を理解するように努めている。服薬に変化があった時には、内容をケース記録等に詳しく記載し、その後の様子を観察し、変化などに気付けるようにしている。また、その都度チェックし、誤薬を防ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や塗り絵など、好きなことをして過ごして頂いている。どのような性格か？、本人の好みは何か？を聞き出し取り入れるようにしているが、不十分な点もあり、もっと利用者と向き合う時間を作りたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ、外へ散歩に出かけている。行事などで、定期的にドライブや外食などを行っている。職員が業務中心になってしまうこともあり、個人の希望に応じた外出支援は思ったように進んでいない。本人のご希望を家族に伝えて外出したり、通院介助をして頂いている。	花見と紅葉狩りは、毎年の恒例の行事となっており、ユニットごとに出かけている。家族の協力を得ながら墓参りに出かけたり、買い物希望する入居者と職員が一緒に外出するなど、利用者の希望に沿った出来る限りの外出支援をしている。気軽に安全に外でリフレッシュできる場所として広い中庭もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお預かりし、事業所で保管している。買い物、外出支援の際には自らお金を所持して頂き、買い物を支援した。また、ご家族の承諾のもと、ご自身で所持したい方には、少額のお金を自己管理して頂き、使うときには見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えがあった時や不穏な状態の時には、家族と電話できるように支援している。手紙が届くこともあり、その返事を書いて送ったりしている。今後、年賀状など定期的なやり取りを支援していきたいと考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の温度と湿度をチェックし快適な状態になるように空調を調節している。壁画などを飾り施設内でも季節感を味わえるように配慮している。トイレの電灯は自動になっているものの、理解できない方も多く、何度も別のスイッチを押してしまうことがあるため、声掛けをしている。	季節の行事をモチーフにした装飾を利用者と職員で協力して制作し展示したり、イベントの記念写真を貼るなどして訪問してくる家族の方々とも思い出を分かち合えるよう工夫している。心地よい自然光がふんだんに入る室内は、温度及び湿度も管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのスペースでは、ゆっくりと足を延ばして休めるようになっている。他利用者様と外を見ながら話ができ、他入居者と交流しやすく、くつろいで過ごされている。疲れている様子の方には居室で休むよう声を掛けたり、個々の状況に合わせて過ごして頂き、ゲームなどを通して交流ができるようにもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族の写真を飾ったり、お気に入りのカレンダーを張ったり、鉢植えをおいて育てたりと、個人の嗜好に合わせた居室の雰囲気になっている。職員とともに整理整頓を行ったりして、安心して過ごせるよう配慮している。	居室には、あらかじめベッドとチェストが用意されている。利用者が使用していたテレビや使い慣れたパイプハンガー、位牌や家族の写真、好きな植物の鉢植えなどが持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	中庭に行きやすいように入出口付近を整頓したり、トイレの表示や居室入り口の名前を分かりやすくするなどして工夫している。施設内、中庭内など、転倒の原因にならないように整理整頓を心がけ、安全な環境整備に努めている。		